

去年秋には、適度な冷え込みもあって、もみじ谷の紅葉が見事でした。遊歩道の中にはびこって居る雑木を切つたり、木屑破碎機を持ち込んで破碎したり、自生の苗木を移植したり、みんなで汗を流したことを思ひ出します。寒い日も暑い

深坂が呼んでいます。桜が招いています。想像するだけで、うずうずしてきてやる気が湧いてきました。今年も元気にしてきました。深坂で汗を流し、共にうまい食事にありつき、大いに笑いましょう。

「マイペースで楽しくゆつくり」でいいのです。

さくら友の会が設立され
て間もなく満7年になりました。
発足当時、ひ弱に見えた苗木が見違えるほど成長
し、世話して来た会員たち
は、花の時期も、葉桜も、
それを見上げて誇らしい気
持ちになっています。苗木
が隠れるほど、丈高く繁茂
していた雑草は、毎年の手
入れで、草刈の頻度を減ら
せるまでになりました。市
民にも、桜の名所としての
認識が高まり、年々花見客

今年もよろしく
お願ひします。



維持管理部会長
江原 實治

発行者：NPO法人
下関深坂さくら友の会
下関市安岡町1-8-3
TEL:083-258-0143
FAX:083-258-5910
<http://yasuokac.sakura.ne.jp/sakura>
Eメール：misaka.sakura@arrow.ocn.ne.jp

平成二十五年の活動開始

平成二十五年の活動開始 1月13日9時、深坂自然 の森の、森の家下関に48名

事開始。作業は天狗巣病の枝の除去。4方面に分かれて着手。切除した枝は、2

山茶花
もみじ谷の道筋に、赤
い花が一杯咲いて居た。
山茶花ざらう。

四方山 今年の桜研修旅行
は琵琶湖周辺の名所旧跡中心の二泊三日で決行つた。



暇はないと言う武将がいるかもしれない。ものあるかもしれぬ。武士に非ずという侍もいるかもしだぬ。敷島のやまと心を人間わば朝日に匂う山桜花（本居宣長）。一本の桜の木の前に立たずむとき時、わたしたちは日本人の心を養われて行くのかもしれない。あゝサクラ、さくら、桜。

たつた一本のヒガソザク
ラだが、一五〇〇年間も、
その時々に生きていた
人々の目に触れ、感慨を
抱かせてきたに違いな
い。聖徳太子は見ただろ
うか、紫式部は見ただろ
うか。名立たる武将たち
は。あるいは芭蕉は。こ
の一本の木を彼らも今共
に見上げている図を想像
することができようか。